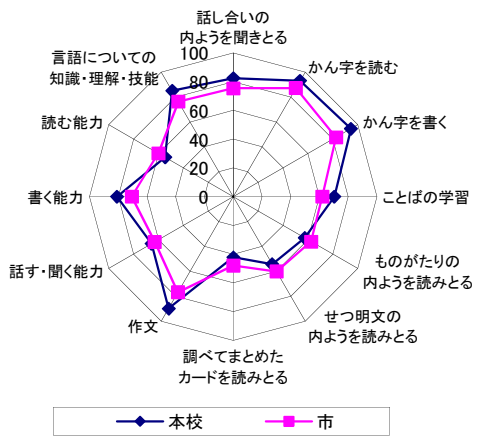


宇都宮市立海道小学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞きとる	82.3	75.4
	かん字を読む	93.0	87.2
	かん字を書く	94.5	82.5
	ことばの学習	70.3	62.0
	ものがたりの内ようを読みとる	57.3	62.5
	せつ明文の内ようを読みとる	54.2	60.3
	調べてまとめたカードを読みとる	42.2	48.0
	作文	89.8	76.8
観点別	話す・聞く能力	65.6	63.0
	書く能力	80.9	70.6
	読む能力	54.8	60.2
	言語についての知識・理解・技能	85.1	76.3



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞きとる	○ 平均正答率は、市の平均より7%高い。 出題内容ごとでは、話の中心に気をつけて聞く問題では、100%正答率であり、十分聞き取ることができている。	朝の会におけるスピーチタイムなどの決められた形での発表の時間を確保するとともに、1つの話題から質疑応答を取り入れ、話を深めていく活動を設ける。 また、国語の学習の中において、「聞く」力をつける学習ゲームを取り入れることで、ゲーム感覚で楽しみながら聞く力の向上を図る。
かん字	○ 平均正答率は、漢字の読み書きともに市の平均より高い。どちらも、93%を超えており、十分満足と言える。	今後もゲーム的要素を取り入れながら、繰り返し漢字の学習を継続して行う。 また、日記や作文だけでなく、日常的に文章を書く際には、学習した漢字を活用するよう指導を行う。
ことばの学習	○ 平均正答率は、市の平均より8.3%高い。 特に漢字のへんについての問題では、96.9%の正答率と、十分理解されている。 しかし、ローマ字を読む問題では、62.5%の正答率となっており、定着が十分とは言えない。	日常的に国語辞典を活用する機会を設けることで、国語の学習だけでなく、言語事項についての定着を図る。 ローマ字については、パソコンの活用なども図りながら読み書きの実践の場を設けていく。
ものがたりの内ようを読みとる	○ 平均正答率は、市の平均より5.2%低い。 語句の補充や登場人物の様子の読み取りの問題は、市の平均より低い。 特に登場人物の様子の読み取りは、16.4%も低く、読み取る力が十分とは言えない。	読書に対する興味関心は、個人差が非常に大きい。 そのため、朝の読書タイムを活用したり、スピーチタイムにおいて、お勧め本を紹介したりすることで、物語に触れる機会を多くしながら、登場人物の心情や場面情景などの読解力の向上を図る。
せつ明文の内ようを読みとる	○ 平均正答率は、市の平均より6.1%低い。 文脈に即した読み取りは、81.3%の正答率だったのに対して、接続語の補充は43.8%、文章の要旨は37.5%と低かった。文章の要旨を読み取る問題は、市の平均も33.5%と低く、読み取る力が十分とは言えない。	筆者の主張を読み取る根拠となる言葉を押さえながら段落の要点をまとめさせたり、段落相互の関係を接続語に着目して考えさせたりしながら、説明的文章の読解力を向上を図る。
調べてまとめたカードを読みとる	○ 平均正答率は、他の内容より42.2%と低い。 必要な情報を読み取り、文章にまとめる問題では、正しい内容でまとめることができている児童が71.9%と多く、前後の分にならって書くことができていない。	スピーチや学習のまとめとして発表を行う際に、メモを活用して発表の内容を整理させたり、話したりすることで、メモのよさを明確にしていける。聞いたことや分かったことをメモする際には、事前に調べる内容を整理しておき、それに対応する形で行うように指導する。
作文	○ 平均正答率は、市の平均より13%高い。書きたいことの中心を明確にしたり、理由を挙げて書くことが98%以上の正答率であった。	今後も継続して朝の学習の時間における日記指導を行い、書くことに対しての苦手意識をなくしていく。また、話の段落を意識して文章を書くことが苦手な児童が多いため、意図的に段落構成を取り入れて書かせるようにする。